

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスcolor 樋井川教室		令和7年2月1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		・時折、足りない時もあるがその際の目配せや環境配置はすぐに判断できるようになったため足りなくても見守れるよう行動している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	・ロッカーやキャビネット、机などを壁にしながら個室を作り構造化している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・毎朝支援会議を行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	・保護者向け評価の他に保護者様から直接お話ししたことや支援方針なども保護者様と相互に納得出来るよう心がけている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・支援会議で話す。Slack上で挙がった疑問も支援会議で改めて話し合い決定している	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	・たまにしか入らないパートさんからの視点を伝えてくれるため普段働いているスタッフには気づかない場面もある。意外とこういうところができてなかったか！と知るきっかけにもなるためパートさんにはいつでも質問していただけるよう他愛のない会話や世間話、支援の話もしていきながらパートさんがご自分の思いを緊張せずに話せる環境づくりを行っている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	・実際に出向くことは2024年は少なかったが、Slack上の研修チャンネルに上げてくださるためそこで皆さんと意見交換はしている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・個別支援計画は主に管理者が作成していたが今年からスタッフ全員でまとめ、管理者が確認する方法になった	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・目標が集団活動の中に対することでも本児が集団活動に拒否感があれば無理にさせることはない。目標が集団活動でも短期ではなく長期的に考えて行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3	・ Slackでの情報共有や個別で話し合いながら振り返りを行っている ・ 皆さんと集まって振り返りをするのは少ないが各々が送迎車の中だったり室内にスタッフがいた際「あの時…」と自然と毎日話し合っている。絶対にしなければならない、というルールはないが自然と皆さん行っているためそこを苦に感じている様子は今のところ見受けられない。 ・ 毎日必ずではないが、振り返りや共有が必要な場合は、適宜打ち合わせ等を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・ スタッフ各々で話し合うこともあれば支援会議で話していた。今年からは個別計画もこちらが作成するため、モニタリングも皆さんと話し合っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1		・ 正直しているものもあればしていないものもある。地域イベントには参加することはほぼないため、他の事業所より地域交流はあまりできていないような気がする。公園や公共施設へ行った際地域の方々とコミュニケーションを取られる姿は見ている。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・ あまり大きい会議に参加することは皆さん少ないが、相談支援員の方と各々話すことは多い。そこに樋井川スタッフが全員参加することはないが、樋井川スタッフ1名が皆さんを代表して情報共有している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3		・ 基本的に連携して行っていることは少ない気がする。学校との連携があるぐらいかなと思います。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	3		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2		・ まだ卒業した方はいらっしゃらない。1名今年の3月で終えるためその際する予定 ・ 私が把握していません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・見学の際にお伝えしている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・学校での様子とcolorでの様子の比較のため書類を作成し保護者様にお渡しすることもある	
	40	文母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	3		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・「これができなかった」という表現ではなく前置きでその児童の気持ちを代弁し「怖かったように見受けられこの動きは難しかった」と表現の工夫を行う。保護者様の捉え方によっては当たりが強く感じられることもあるため。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1		
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	・玄関の鍵の開閉や外出先での注意ポイントを情報共有する	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	・本児に対して外出先での安全に留意した経緯や行ったことなどを記録に書いている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・毎年研修やSlack上の研修Slackであげられている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		・本児の生命に関わることであればやむを得ず身体拘束を行っている。	